

ツチノコ共和国建国 30 周年と下北山村の村づくり

今瀬 政司（ツチノコ共和国国民・市民活動情報センター代表理事・京都経済短期大学准教授）

Keyword : ツチノコ、地域づくり、都市・山村交流、ミニ独立国

【ツチノコ共和国の建国と現在】

奈良県南部の下北山村にミニ独立国の「ツチノコ共和国」がある。建国の発端となった第1回ツチノコ探検が開催されて以来、本年2018年4月で30周年を迎えた。

1988年4月16～17日、下北山村を活性化させたいと考えていた住民有志が行政職員の協力を得て、「ツチノコ探検」を開催した。夢とロマンを愛する人々を対象に企画したそのイベントには、全国各地から大勢の人々が訪れて、村始まって以来の大騒ぎとなった。マスコミ多数の報道により、「ツチノコの下北山」として全国に紹介された。だが、住民有志は珍しがり屋のマスコミ報道を頼りに参加者を募るツチノコ探検の継続は限界と判断。下北山＝ツチノコという評価の定着と、新たなる発展として都市住民と山村住民の交流を目的にして、1989年4月22日、「ツチノコ共和国」の建国を宣言した。第2次ツチノコブームの先駆けとなり、下北山村は地域づくりの先進地、成功モデル事例と言われるようになった

阪神・淡路大震災があった1995年には、市民活動情報センターの協力を得て、他に先駆けて、ツチノコ共和国のホームページ「下北山村ツチノコ共和国」を開設するとともに、国内（村内）でインターネットセミナーを開催した。それにより、更なる情報発信を行っていった。

だが30年を経て、当時1,600人いた村民は、2018年現在900人にまで減った。世代は変わり、今日では、全国から大勢の人々が押し寄せる地域づくりの先進地であったことを知る人も少なくなっている。

そうした中、2018年4月16日～5月7日（22日間）に「ツチノコ探検30年懐古展「30年前のあなたに会える」」を実施し、5月7日には「ツチノコ探検30年記念シンポジウム」を開催した。ツチノコ探検企画の経緯からツチノコ共和国建国までの道のりを振り返り、下北山村の今後の地域づくりに資する機会となることを願っての開催である。

【ツチノコ共和国の概要と活動内容】

①建国と活動の目的

ツチノコ探しが主目的の団体ではない。下北山村のファンづくり活動の一つで、都市住民との交流による地域

活性化を狙いとし、自然を生かしたイベント開催で来村のきっかけを作ること。参加者との交流の積み重ねによる閉鎖的な地域体質の改善を図り、下北山村に住みたいという人々を受け入れられる土壌づくりを目的としている。貧弱な国家財政で活動しているパロディ国家である。

②活動の内容

ツチノコ共和国の国民相互の交流と新規国民募集を目的として、下北山村の自然や歴史・伝承・料理で交流を楽しめる様々なイベントを実施している。毎年2月にツチノコ共和国冬の旅「突進鍋の集い」、6月にツチノコ共和国夏の旅「蛍の源平合戦」を第2土・日曜日（原則）に一泊二日で開催している。ツチノコ共和国内の自然調査や自然保護活動に取り組む一方、ミニ独立国国際連合に加盟してサミットへの参加や各国との情報交換・友好・親善を深めている。

③建国宣言と「ツチノコ共和国・憲章」

ツチノコの化身であるツチ国王を盟主として、夢とロマンあふれるさわやかな国づくりのため、勝手に独立国家としての「ツチノコ共和国」の建国を宣言した。ツチノコ共和国は、金権腐敗と汚職、消費税のない国民から絶大なる支持の得られる国家の建設を目指した。そのパロディ精神は、過疎の国よりの脱出をなし得ることと、過密の地に出稼ぎしているツチノコ共和国国民に多くの夢と希望をあたえることを信じてのものである。

「ツチノコ共和国・憲章」を次のように定めている。一、広くツチノコ捜しを開放し、万人はツチノコを愛すべし。／一、老若男女は心を一にして、盛んに搜索すべし。／一、国民はその志を遂げ、大いに世間を驚かせるべし。／一、旧来のネッシーや雪男に負けぬよう、天下にツチノコの名を轟かせるべし。／一、ツチノコ存在を世界に教え、国境を越えてロマンを分かちべし。

ツチノコの手配書を各所に配布し、生け捕りにしたら賞金2,001万円としている。

④ツチノコ共和国の行政機構等

ツチ国王とノコ女王とともに内閣があり、閣僚、国会議員、行政機関（爽里府など）を設置している。国外には、大使館・領事館を置いている。爽里（そうり）大臣、抱夢（ほうむ）大臣、大喰（おおくら）大臣、運遊（う

んゆ) 大臣、野林 (のうりん) 大臣、見説 (けんせつ) 大臣、遊勢 (ゆうせい) 大臣、老働 (ろうどう) 大臣、外夢 (がいむ) 大臣、奮歌 (ぶんか) 庁長官、輪野 (りんや) 庁長官、食獵 (しょくりょう) 庁長官、歎冒 (かんばん) 長官、爽夢 (そうむ) 長官、希画 (きかく) 庁長官、自然 (しげん) エネルギー庁長官といった大臣がいる。祭昂 (さいこう) 顧問、愚人 (ぐじん) 会議、国会議長、政党にダム半党、星 (ほしゆ) 党がある。

だが、ツチノコ共和国は、国家財政が貧弱で利権が入り込む余地がないため、どこかの国のようにポストに執着する人がいなく、無理矢理ポストを押しつけているのが実情のため、公職選挙法の必要が今のところない。

奈良領事館のほか、平群、茨木、相楽、守山、東大阪、枚方、灘、中京、知立、日本青年、深谷、羽島、香芝、船橋、札幌、苫小牧、帯広、網走などの領事館がある。

領事は、希望する国民に委嘱し、大使は50名以上の国民を勧誘した領事が昇格する。領事・大使には、ツチノコ共和国 (下北山村) への亡命 (国民) 希望者の紹介、ミニ独立国サミットへの参加、ツチノコ共和国の存在を広く世に知らしめるお手伝いや国家運営への意見などをボランティアでお願いしている。領事や大使には、領事館・大使館の看板を贈っている。看板は、国家崩壊時には「まないた」として使ってもらえる。

⑤国籍取得と行政サービス

ツチノコ共和国の国籍を取得して、国税を年額1,000円納税すると、国民はパスポートを交付してもらえる。建国以来約2,000名にパスポートが発行された。だが、国税を滞納すると国籍が剥奪され国外追放となるため、数百名の方々に日本国との2か国籍 (国籍登録) を取得してもらっている。国税の滞納により国籍を剥奪されても、国税の納入があった時点で国籍の回復ができる。

国民になると、様々な行政サービスが受けられる。国民には国有施設 (村有) の優待割引がある。村の歴史・自然・伝承・食物等によるイベントに参加できる。国内 (村内) にある空き家を1ヶ月1万円で借りることができるため、その建物を「王宮」と名付け、国民が利用できるようにしている。王宮には、国民からの基金30数万円で揃えた布団 (19名分) や食器類など生活必需品を置いている。王宮利用者は、希望によりツチノコ大学の教授 (村民との情報交換や交流) になることができる。王宮のそばでは川遊びができ、梅雨時には蛍が飛び交う。

ツチノコ共和国の運営費は、自主財源の国税と寄付金で賄っており、村からの活動補助はもらっていない。年

税1,000円の使途は、国民への事務費・通信費、ミニ独立国国際連合への分担金、王宮維持費やイベント開催時の赤字補填、ミニ独立国サミット参加旅費の補助である。ツチノコ共和国には消費税や介護保険はない。

⑥国歌「夢をください つちのこくん」

国歌は、ホームページで公開され、無料で視聴できる。

「雨が降りそな 山道で/ぼったり出あった つちのこくん/はじめましても 聞かないで/あつというまに 消えちゃった。久方ぶりに 血がたぎる/明けても暮れても つちのこくん/今度あったら どうしましょう/写真だけでも とらせてね。休みのたびに 山歩き/も一度あいたい つちのこくん/春・夏・秋を くり返し/探しあぐねて 立ちどまる。あれから何年 たったかな/神出鬼没の つちのこくん/つかまらないよに あらわれて/夢をあたえて くださいね。夢をあたえて くださいね。」

(作詞: 白川よしと、作曲: 中島昭二、編曲: 小森昭宏、歌: 森の木児童合唱団、演奏: ビクターオーケストラ)

【今後の展望】

ツチノコ共和国が建国された下北山村は、奈良県南部の山深いところにあり、自動車で大坂から約3時間、鉄道はなく、本数の少ないバスが村外とをつないでいる。そうした非常にアクセスが不便な下北山村に、ツチノコブームが起こり、大勢の人々が訪れた。訪れる人々を魅了したのは、夢とロマンを分かち合おうという住民有志たちの「思い」であった。そこに損得というものはない。ツチノコ共和国の活動は現在も続いているが、ツチノコブームは去った。下北山村では、世代交代の課題もあり、次代にあった新たな地域づくりが模索されている。

地域づくりに「成功の方程式はない」。成功の手法・方策は何かといったテクニックだけでは地域づくりは上手く行かず、「思い」の共有が欠かせない。下北山村の今後の地域づくりでは、「ツチノコ共和国」の活動で培ってきた、夢とロマンの「思い」を今後もつなぎ、分かち合っていくことが重要であると考えている。

【引用・参考文献】

ツチノコ共和国「地域づくり団体ツチノコ共和国ホームページ」<http://www5.kcn.ne.jp/~tutinoko/> (2018.7.31)
市民活動情報センター「下北山村ツチノコ共和国ホームページ」<http://sicnp.jp/tutinoko/> (2018.7.31)
ツチノコ共和国 (野崎和生)「ツチノコ探検30年懐古展・記念シンポジウム」開催資料 (2018.5.7)